

# 高知県須崎市における 「母子健康手帳アプリ」運用の現状

須崎市

令和3年9月28日（火）

# 須崎市の概要

## 地域の概要

- 総人口： 20,372人 (令和3年3月末現在)
- 世帯数： 10,158世帯 (令和3年3月末現在)
- 高齢化率： 40.4% (令和3年3月末現在)
- 年間妊娠届出数： 105人 (令和2年度)
- 年間出生数： 93人 (令和2年)

## 子育て世代包括支援センターの業務

- 母子健康手帳の交付は保健師が全数面接で実施
- 妊婦一般健康診査受診票・産婦健康診査受診券の交付
- 妊産婦の健康相談
- 赤ちゃん訪問や育児組織に関すること
- 産前産後ヘルパー派遣事業に関すること  
(産後6か月まで、2時間500円)
- 産後ケア事業に関すること (宿泊型、デイサービス型)



【面積】 1 3 5 . 3 4 平方メートル

## 【地勢】

- 山岳丘陵地帯が多いが、新莊川、御手洗川、桜川などの流域は肥沃な農耕地が開けている。ミョウガは全国シェア1位。
- 鍋焼きラーメン、メジカの新子が名物。
- 須崎湾口付近に市街地をつくっている。
- 気候は温暖で、降雪は少ない。雨量は全国最高部に属している。
- 南海トラフ地震では、高い津波が予想されており、防災対策が課題となっている。

# 災害と須崎市



チリ地震津波

1960年（昭和35年）5月23日

【本市の状況】

本市には24日午前5時頃から午後6時頃までの間、20数回の津波が押し寄せ、大間地区や須崎棧橋付近の貯木場の機材を押し流し、住家に被害を生じた。

多くの家屋が浸水した。



# 災害と須崎市

## 昭和南海地震

1946年（昭和21年）12月21日

### 【本市の状況】

本市には地震発災から約10分で津波が襲来し、その後20分ほどの周期で6、7回襲来した。

- ・死傷者：死者・行方不明者61人、負傷者140人
- ・建物被害：家屋全壊198戸、半壊563戸、流失168戸、浸水1,315戸、焼失9戸
- ・その他：道路決壊21カ所、船舶流出683隻  
田畑の浸水398町

## 東北地方太平洋沖地震

### 津波

2011年（平成23年）3月11日

### 【本市の状況】

本市では午後8時59分に西日本最大の2.6mの津波を観測した。この津波による人的被害はなかったが、家屋等の床上下浸水をはじめ、養殖施設等に23億円の大きな被害が生じた。

- ・死傷者：なし
- ・建物被害：床上浸水5戸、床下浸水11戸
- ・その他：車両浸水20台、漁船転覆15隻、

# 導入の背景

年度	妊婦	出生
平成27年度	137	134
平成28年度	150	120
平成29年度	100	122
平成30年度	100	93
令和元年度	89	93
令和2年度	105	96

- 第一子は3～4割程度
- 出生数は減少傾向
- 市内に産婦人科・分娩施設がなく、最寄りの産科まで車で1時間程度かかる。
- 南海トラフ地震で市街地のほぼ全域が浸水。予想される最大津波高25m、市街地への到達時間15分～20分。



- **母子保健・子育て情報の発信力強化**
- **災害時への備え（情報の電子保管）**

# 「母子健康手帳アプリ」の導入



NTT  
docomo

2016年10月28日

特定非営利活動法人 ひまわりの会  
株式会社NTTドコモ

妊娠中から子育て中のお客さま向け「母子健康手帳アプリ」を提供開始  
～健康管理情報の一元化を通じた生涯にわたる健康支援をめざして～

特定非営利活動法人ひまわりの会(以下、ひまわりの会)と株式会社NTTドコモ(以下、ドコモ)は、妊娠中から子育て中のお客さま向け「母子健康手帳アプリ」を新たに開発し、2016年10月28日(金)から無料\*で提供いたします。

「母子健康手帳アプリ」は、マタニティマークの普及等、妊婦さんとそのご家族のサポートに取り組むひまわりの会が、これまでスマートフォン、タブレット向けに提供している「母子健康手帳」の機能を拡張し、新たにドコモが株式会社博報堂DYメディアパートナーズの協力を得て運営します。

これまでの健康管理機能を、記録が入力しやすい画面やデザインにする等、新たにし、成長記録や情報配信機能を充実させました。ドコモはもちろん、他社のスマートフォン、タブレットやパソコンでもご利用いただけます。紙の母子健康手帳と合せてご利用いただくことで、デジタルならではの付加価値を持たせた子育て支援を実現します。

本アプリは、厚生労働省の定める省令に準拠し、妊娠中から6歳児の健診までの記載項目を網羅しており、健康診断や予防接種などの健康記録や、子どもの日々の変化を成長記録として、スマートフォンで一元的に記録・管理することができます。

さらに、自治体と連携し、地域の子育て関連の制度やイベント情報などを配信するとともに、母子健康手帳交付時に、本アプリを案内することで、自治体を通じた早期の普及をめざします。また、病院と連携し、医師や専門家による情報も配信します。

提供開始当初は、自治体は東京都町田市及び、高知県須崎市、病院はNTT東日本関東病院、旗の台レディースクリニック及び、とちぎクリニックと連携しています。

今後、ひまわりの会は、関係各所と連携を図り、自治体の配布する紙の母子健康手帳と一緒に使える、安心・安全でより便利な子育て支援サービスの提供と普及促進をめざし、取り組んでまいります。

ドコモは、ヘルスケア分野における協創を通じ、生涯にわたる健康や成長の記録の活用により、専門機関と生活者をつなぎ、両者を支援するサービスの創出に取り組んでまいります。

- 2016年10月28日  
「母子健康手帳アプリ」リリース当初より導入



画像引用：母子健康手帳アプリ (<https://www.boshi-techo.com/service/>)

# 「母子健康手帳アプリ」の運用

## 母子健康手帳アプリの特徴

母子健康手帳アプリは、地方自治体が交付する母子健康手帳の記録をデジタル化することで、

ひとりひとりに最適な情報を配信するアプリです。

家族の積極的な健康管理を促し、妊娠・出産・育児期を継続的にサポートできます。



母子健康手帳と一緒に使える  
母子健康手帳アプリ



健診の記録をクラウドに管理



自治体や病院から  
信頼できる情報が届く

# 「母子健康手帳アプリ」の運用

## 自治体からの情報配信

	定期配信	随時配信
特徴	<ul style="list-style-type: none"><li>あらかじめ自治体が情報を登録しておく、その年齢（月齢）になったらアプリ内の情報一覧に情報が表示される</li><li>情報はアプリを開かないと見れない</li><li><u>開封率（既読数/配信数）は20%程度</u></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>配信日・配信対象を決めて自治体が随時情報を配信</li><li>ユーザーにプッシュ通知でお知らせ</li><li><u>開封率が高い（70～80%）</u></li></ul>
情報内容（例）	<ul style="list-style-type: none"><li>妊婦健診通院費補助制度について</li><li>出産後の手続き</li><li>予防接種のお知らせ</li><li>須崎市内の公園マップ etc.</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>子育て支援センターのおたより</li><li>月毎の助産師駐在スケジュール</li><li>乳幼児健診の案内</li><li>ボツリヌス菌について etc.</li></ul>

**小さな情報や保護者世代への情報の配信が可能**



# 「母子健康手帳アプリ」の運用

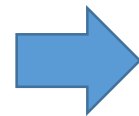
運用会議を定例で開催し、状況を共有

## 【参加者】

保健師、子育て支援センタースタッフ、高知大学CD、(株)NTTドコモ etc.

## 【議題（例）】

- ・ユーザー数等の推移
- ・情報閲覧傾向
- ・妊娠届提出者数・出生数の状況
- ・他の自治体の状況
- ・次回会議までの配信情報
- ・ユーザーからの反応



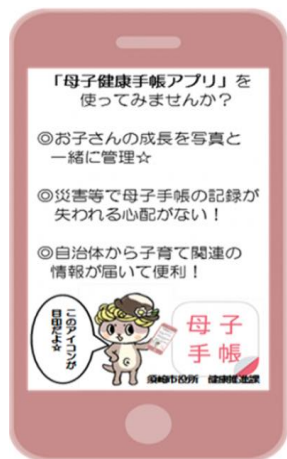
## 【改善例】

- ・情報配信方法の修正
- ・広報資料の修正
- ・カードサイズのチラシの作成
- ・子育て支援センターカレンダーの配信

# 「母子健康手帳アプリ」の運用

## お父さん・お母さんへのアプローチ

- ・ 保健師による案内、チラシ配布、クチコミ etc.



カードサイズ

母子手帳 「母子健康手帳アプリ」を使いませんか？  
～須崎市で保健・子育て情報配信サービス提供中～

母子健康手帳でお困りではないですか？

- ★子どもの成長が数字だけで分かりにくい！
- ★イベントや健診の日程が分からない！
- ★1冊しかないから他の家族が見られない！
- ★災害とかで失くしたらどうしよう…

「母子健康手帳アプリ」を使うと…

- 子どもの成長を画像やグラフと一緒に記録できる！
- 市から健診の日程やイベント情報がスマホに届く！
- お父さんのスマホでも記録を見れるから、成長の様子を実感してもらえました！
- 母子健康手帳を失くしてもアプリに記録が残る！

【無料利用開始はこちらから】  
アプリストアからダウンロード！  
母子手帳 母子健康手帳アプリ 検索

こちらのQRコードからもダウンロードできます！

須崎市

アプリをダウンロードしたら…

- ①ログイン dアカウントを使用します。dアカウントをお持ちでない方はdアカウントを作成後、ご利用ください。  
※アプリ版ではログインが利用できませんが、成長の記録検索・自治体からの情報配信機能はご利用できません。
- ②アカウント作成 利用される方の情報を登録します。
- ③子ども登録 お子さんの情報を登録します。
- ④自治体登録 「コラム・設定」から「自治体設定」→「高知県」→「須崎市」を選択  
※自治体登録を行わないと、須崎市からの通知は受けられません。
- ⑤家族と共有 (ママ) 「コラム・設定」から「家族共有設定」→「家族を招待する」を選択 (DTP) アプリをダウンロード→「家族共有ID」を入力  
※共有できる相手は1人のみです。また、須崎市からの通知は共有相手には届きません。

さらに便利な機能

おまかせ入力 「コラム・設定」から「関連アプリ」→「母子健康手帳 おまかせ入力」アプリをダウンロード  
※手書きの母子健康手帳のページを撮影して送るだけで本アプリに記録できます。

よくある質問はこちら→ (須崎市ホームページへ移動します)

【お問い合わせ】 ※個別のお知らせに関しては、各担当課にお問い合わせください。  
●母子保健・健康診断・予防接種等に関すること……須崎市健康推進課 Tel:0889-42-1280  
●子育て支援・保育費・給付金等に関すること……須崎市子ども・子育て支援課 Tel:0889-42-1229  
●その他本アプリに関すること……須崎市企画政策課 Tel:0889-42-5691

「母子健康手帳アプリ」はNPO法人ひまわりの会及び株式会社HTTITCOMOが提供するサービスです。

A4サイズ  
(表・裏)

# 利用者の状況

## 現在のユーザー数

### ■ユーザー概要

登録ユーザー数 現時点で登録している全ユーザー数		228人
アクティブなユーザー数 直近1か月間にアプリを立ち上げたユーザー数		48人
妊娠42週前のユーザー数		3人
生後の子どもを 登録しているユーザー数	生後0歳	17人
	生後1歳	25人
	生後2歳	38人
	生後3歳	44人
	生後4歳	54人
	生後5歳	23人
	生後6歳以降	50人

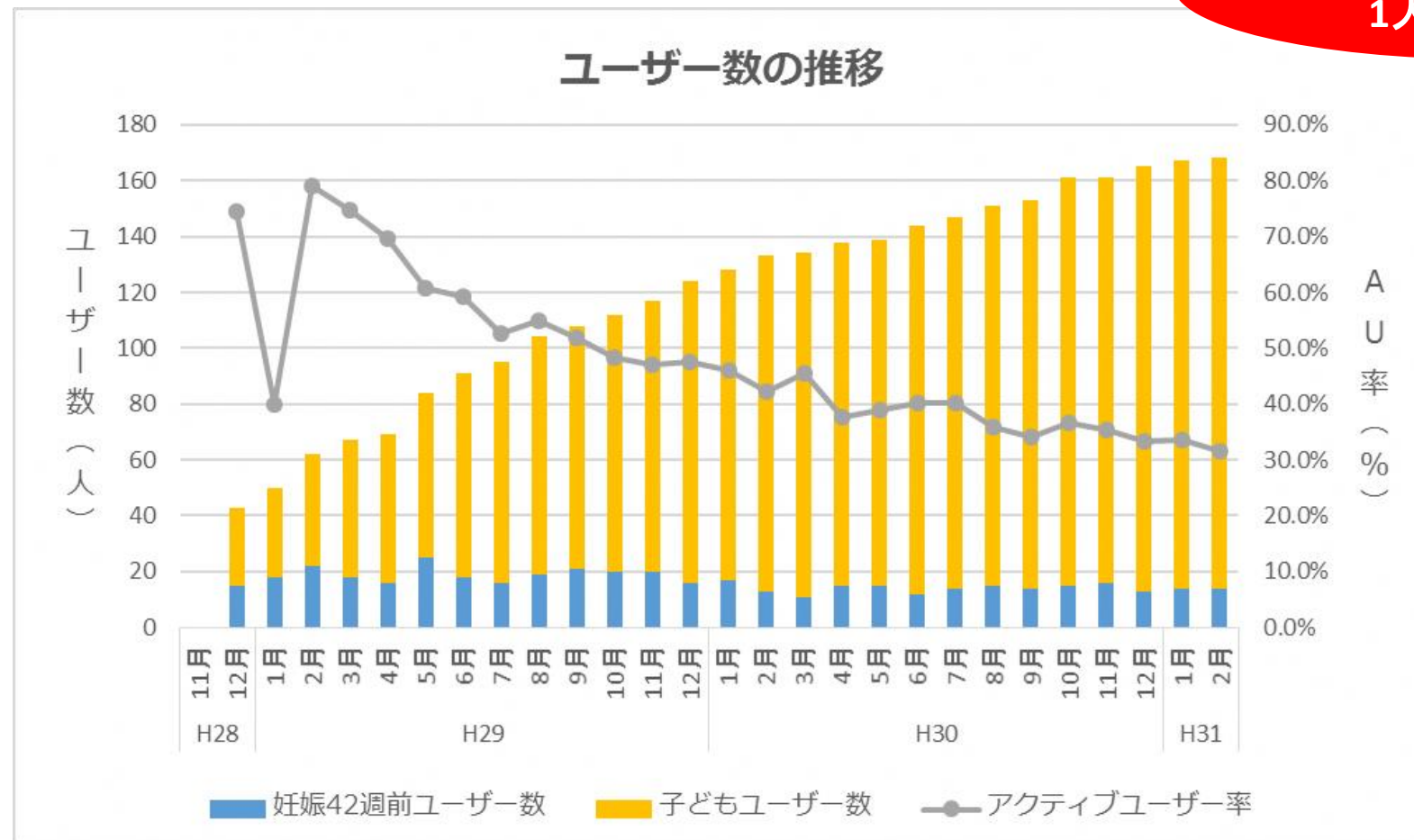
### ■家族共有概要

家族数 現時点の家族数		11人
アクティブなママ数 直近1か月間にアプリを立ち上げたオーナー数		5人
アクティブな家族数 直近1か月間にアプリを立ち上げた家族数		0人
妊娠42週前の家族数		0人
生後の子どもを 登録している家族数	生後0歳	2人
	生後1歳	0人
	生後2歳	7人
	生後3歳	2人
	生後4歳	3人
	生後5歳	0人
	生後6歳以降	3人

# 利用者の状況

ユーザー数は右肩上がり、ただしAU率は減少

お母さんの4~5人に  
1人が利用中



※AU（アクティブ・ユーザー）：直近1か月間にアプリを立ち上げたユーザー

# 運用上の課題

- アクティブユーザーが少ない。
- ユーザー情報が詳しく分からない。
- 配信情報のマンネリ化



# 利用者の声

## 【評価】

- デザインがかわいい、○市や子育て支援センターの情報がスマホに届くのはうれしい、
- 使い方が分かりづらい

## 【使っていない理由】

スマートフォンを使う時間が無い・別のアプリを使用中・生まれた直後にあったら使った・紙で管理する癖がついているのでわざわざ再入力しようと思わない・使い方が分からない

## 【ほしい機能・情報】

離乳食のレシピ・他のママ友と繋がる機能・イベントや教室のお知らせ

## 【他に使っているアプリ】

生活リズムの記録・離乳食の作り方



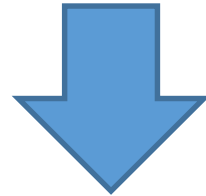
# 「情報を入れておいて」では使ってくれない！

- ✓ アプリを開かせる仕掛け・メリットは？
- ✓ どのタイミングでアプリを使い始めるか？
- ✓ アプリの種類が多すぎる…

# 「情報を入れておいて」では使ってくれない！

**アプリを開かせる仕掛け・メリットが必要！**

**どのタイミングでアプリを使い始めるかが重要！**



- 随時配信記事がマンネリ化していたため、配信回数を増やし、記事をリニューアル予定
- 災害についての啓発とともに、母子手帳アプリの活用方法を伝える
- アプリの広報に再度力をいれる（妊娠届出時、妊婦教室時、乳児健診時等）



# 母子保健の担当として感じること

## 親子を取り巻く現状

- スマホやタブレットを情報源として育児をしている母親の増加
- SNSでつながる妊産婦 「会ったことはないけど知っている。」  
「相談相手はSNSでの知り合いしかいない。」
- 子どもがメディア（テレビ・スマホ・タブレット等）に触れる機会の増加についての課題。
- 新型コロナウイルス感染症により、イベントや講座の減少、子育て支援センターへの通所の減少。閉じこもっている親子の増加。  
→ 直接、人とつながる機会が減っている



スマホやタブレットは、生活・育児に密着している  
使い方次第で、行政や地域住民とのつながりを作ったり強化したりできるのでは…

# 母子保健の担当として感じること

- 母子手帳アプリは、成長記録や情報配信のツールのひとつとして有効
  - SOSを出しにくい人にとっては、電話や来所相談は難しい。メールなど、相談しやすいツールも必要（特に予期せぬ妊娠や若年出産の場合）
  - アプリでの発信を通じて、「行政」の敷居を低くし、身近な相談相手として感じてもらいたい。
  - 保健師としては相談は直接受けたい。オンラインでは、親子の関係性や非言語的な様子が見えない。
  - **すべてを電子化すると、利用できない人が置き去りになる可能性がある。スマホは持っていても、アプリの使い方がわからない母親もいる。**
- **誰でも使えること、支援者等第三者が記入できることも必要。**

# 母子手帳の電子化について

- 災害時に、地域での情報が伝わるツールとしての活用したい。（東日本大震災の際、須崎市でも車中泊が多かった。）
- アプリやサイトによって書いている内容が違うため、混乱している家庭がある。  
→共通の情報源をつくる、いろいろな母親の体験談や経験を知れる等
- 母子手帳の電子化は、全国どこでも使えるような共通のツールにしてほしい。（現状では、転出したら情報配信をしても役に立たない。使っているアプリがバラバラ。）
- 電子化を推奨するのであれば、指針が必要。
- 市単独では、財政面で継続が困難な場合がある。国や県の補助金等を活用すれば導入可能な自治体も増える。

# 乳幼児健診について

- 高知県では小児科医が少なく、その中でも乳幼児の発達・発育が診察できる小児科医が少ない。発達が確認できる医師の養成も必要。
- 保健師も若い世代が多く、乳幼児健診に関わらない場合もあり、継続して乳幼児の発達に関して学ぶ場が必要。
- 乳幼児健診では、早期に発達が気になる子どもの支援を開始する仕組みと、発達を促すための遊びや育児の具体的なアドバイスができる場であればよいと考える。
- 乳幼児健診は、市町村の体制が許せば、集団で行うことが望ましい。  
【理由】
  - ・ 行政からの情報発信が可能
  - ・ 保護者の体験を通して相談機関としての認識ができる。
  - ・ 他児や保護者と出会うことで自分の育児や児の育ちの振り返りができる。

# 妊産婦健診について

## 妊婦健診に関して

- 妊娠初期に気軽に受診できるように、初診から無料にならないか。

## 産婦健診に関して

- 産婦健診の仕組みができたことで、産後2週間、1か月で医療機関にかかり、産後うつが発見され、支援できる仕組みができた。  
(高知県では令和2年10月~)
- 産婦健診の場で、産後うつのアセスメントに加えて、母親の体調の回復に必要な栄養や休養の指導も併せて行えることが望ましい。

# 母子保健について

- 現在の支援体制では、養育者との出会いの契機を持ちにくいことが、ネグレクトの死亡事例の特徴としても挙げられており、（子ども虐待死亡事例等の検証結果 第17次報告より）子どもの健康やいのちをまもる行政機関の責任として、母子保健として、子どもの状況を全数把握し、乳幼児健診、妊産婦健診を通じて養育者との対面での関係づくりが可能な仕組みづくりが、今後必要だと考える。
- 母子手帳に関しては、すべてを電子化してしまうと、自分で入力できない養育者やインターネット環境にない方たちとの情報の格差が心配される。
- 相談につながりにくい、SOSの声を上げにくい家庭が今後、つながりやすい、相談しやすい仕組みになるような母子保健全般の見直しを希望します。

以上 ご清聴ありがとうございました。